



2022年7月1日
ハレルヤ保育園
保健衛生

梅雨の季節は、湿度も高くじめじめした日が続いています。これからは梅雨も明け、日に日に暑さが増していき本格的な夏の到来となります。夏場は暑さのために体力を消耗しがちです。脱水予防には、こまめに水分補給をしましょう。生活リズムをととのえ、十分な睡眠をとるなど、日常の生活にも気をつけて、元気に夏を過ごしましょう。

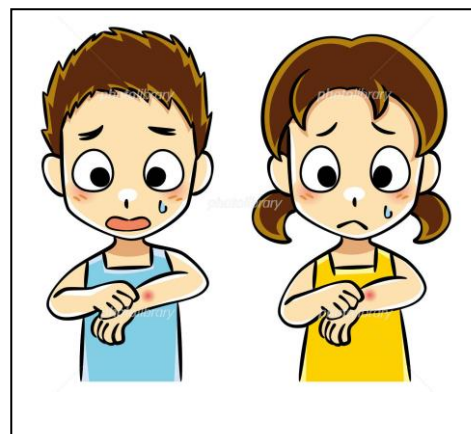
6月の感染症報告

なし

蚊の予防と対処法 (少年写真新聞より抜粋)

蚊に刺されたらどうなるの？

子どもは新陳代謝が活発なので、虫に刺されやすく、肌が弱いと症状が強くなってしまふことがあります。蚊に刺された時の皮膚反応は、刺されて直ぐに赤くなってかゆみが出る場合と、刺されて1～2日で赤くなってかゆみが出る場合があります。新生児はアレルギーが成立していないために無反応ですが、幼児期までは両者の反応が出るといわれています。実際には個人差があります。



蚊に刺された時の対処法

蚊に刺されてしまった場合は、刺されたところを水で洗い流して清潔にします。
かゆみを軽減させるためには、水で濡らしたタオルや保冷剤などを使用して、冷やすことがおすすめです。
必要に応じて、かゆみ止めを塗ります。
刺されたところを掻きこわして細菌に感染してしまうと、とびひになることがあります。



虫除け剤の注意事項

ディートという成分が含まれる場合は、顔には使用しないこと、6ヶ月未満の乳児には使用しないこと、6ヶ月以上2歳未満は1日1回、2歳以上12歳未満は1日1～3回までと、使用が制限されています。イカリジンという成分は年齢の使用制限はありませんが、ディート同様、目に入れたり、飲んだり、なめたりさせないようにします。

とびひ (伝染性膿痂疹)

とびひは細菌による皮膚の感染症で、水ぶくれやかさぶたができます。接触によってうつり、火事の飛び火のように広がることから、こう呼ばれます。あせもや虫刺されなどを引っかいたり、転んだ傷に二次感染を起こしたりして発症します。また、鼻を触る癖があると、鼻の周囲からとびひが始まることもあります。

予防について：とびひを予防するためには、入浴して皮膚を清潔にし、手洗いをしっかりとさせることが大切です。皮膚をかきむしって傷つけないようするために、爪を短く切りましょう。また、とびひの原因になる細菌は鼻の中に沢山いるので、鼻をいじらないように伝えます。

登園してもよい？

基本的には、医師の診断・治療を受けて、とびひの部分ガーゼや包帯できちんと覆っていれば、登園することができます。しかし、とびひが多発していたり、広範囲にわたっていたりする場合は、休ませる方がよいといわれています。

プールに入ってもよい？

プールや水泳は、とびひの症状が悪化したり、友達にうつたりする恐れがあります。そのため、完全に治るまでは禁止です。わからないことは皮膚科医に相談しましょう。

